

第四章 部派の教學

第五章 小乘佛教の成立と變遷

第三篇 大乘佛教時代

第一章 大乘佛教の興起

第二章 大乘初期の經典

第三章 龍樹とその後繼者

第四章 大乘中期の經典

第五章 無着及び世親

第六章 佛教藝術の發達

第七章 大乘後期の諸論師

第四篇 密教時代

印度佛教史に多くのテッドロツクのあるは衆知の如くであるが、かかる場合は問題を提出してその意義を述べるに留め斷案の無闇を避けてゐるが全般にわたつては概説書として稀に見る精密な牽強なき引證をなして内容を確實ならしめてゐる。

殊に原始佛教・部派佛教に於ける夾雜した諸思想にも拘はらず夫等を内容的に緊密に相關せしめてゐる點に特色の一を見るであらう。

更に章末に擧げられたる内外の參考書、典據の見出し、内容の見出し及び寫眞數葉の挿入は初學者にとつて便宜である。

とまれ茫漠として廣汎なる印度佛教全體を思想的に深く掘り下げ乍ら要領よく僅か一八〇頁の袖珍の書となし、而も専門學校程度の教科用として著はれた點に本書の意義を認めなければならぬ。(法藏館發行、菊版一八〇頁、定價壹圓)(佐々木)

研究室彙報

眞宗學研究室

△眞宗學會

○六月二十四日午後三時より當研究室にて安井主任以下の出席を請ひ本學會々則の一部變更を決議、事項左の如し。

一、雜誌『眞宗論攻』を『會報』に改め、學生本位の機關誌とする件

一、研究發表の外に隨時信仰座談會を開催する件

一、毎年一回見學旅行をなす件

○九月二十八日午後三時より加藤教授を中心として第一回信仰座談會開催、會場第十一教室、參會二十名。

○十月二十二日懸案の見學旅行を決行、紀要左の如し。

見學目的地 福井方面

指導 可西教授・岸助手

參加者 久保田・藤原副手以下學生十二名

會費 六圓

二十二日 午前〇時一分京都發北陸線武生へ、毫攝寺・

成福寺・誠照寺・證誠寺・專照寺・永平寺を參拜見學、福井別院にて一泊。

二十三日 午前七時二十一分福井發細呂木へ、吉崎別院・願慶寺を參拜、蘆原を経て東尋坊・雄島に清遊、午後六時半福井發歸學。

○十一月二日午後三時より第一教室にて例會開催、講師及び講題左の如し。
現生不退について 源廣宣教授

佛敎學研究室

△佛敎史學會

春季史蹟踏查旅行

五月二十六日より四日間、佛敎史學會主催、日下教授指導の下に讚岐方面の史蹟踏查を行ふ。二十六日夜、京都を立ちて天保山より鳴門丸に乗船、翌朝多度津に上陸。背後の桃陵公園に聳ゆる出征美談『一太郎やーい』に名高き川田姥母の銅像を右に眺め、電車にて廻遊、善通寺下車、弘法大師誕生の大本山善通寺に參詣、塔に登り四方の勝景を賞でて後、寶物館を參觀す。次で琴平下車、麓より石段を登る事約九丁、古來象頭山、金毘羅大權現と呼ばれ、水火の難を除き福利を與へ給

ふ海内無双の靈詞金刀比羅宮に參拜。歩を右に移せば讚岐平野は脚下に展開し、讚岐富士、白峰、屋島、五劍山等宛ら大和繪の如し。更に進みて佛生山に下車、法然上人開創の佛生山に詣で、有名なる寢釋迦を拜し、後、高松に到着、一樹一石、一丘一水の風韻雅趣に富む栗林公園を漫步中、椎名先生に面接、同道井戸屋旅館に着き、先生と共に團欒す。二十八日朝旅舎を出で、高松港頭なる老松白聖水に映する玉藻城趾を觀覽後、興正寺別院に詣で與御殿拜觀、南して福善寺に參詣、住持の懇意に依り、聖人傳繪(狩野内)及三帖和讚(上人題撰圓光)を特に觀察す。栗林公園にて晝食を攝り、椎名先生と共に屋島に向ふ。ケープルにて南嶺の屋島寺に參詣、寶物拜觀の後、談古嶺源平茶屋に暫し憩を求む。内海の風光一眸の下に收め、平家没落の哀史を語り、懐古の情に浸り乍ら「今西郷さん」の地誌的説明を聞く。臺地を下り高松に歸へり宿泊す。二十九日朝高松出帆の黄金丸にて歸阪、四天王寺拜觀の後、解散歸洛す。(長島誌)

人文學研究室

△國史研究會

○山陰山陽方面史蹟踏査旅行

見學行程 六月六日より十一日まで。

〔見學菜〕配布。六日午後九時五十分京都驛發。

七日松江 西光寺。ヘルン舊宅。ヘルン記念館。菅田

庵。松江城。大寺藥師。日御崎神社。

八日。 千家男爵家。出雲大社。同寶物館。北島男

爵家。

九日 萩 松陰神社。板下村塾。明倫館趾。

山口。山口博物館。同圖書館。洞春寺。瑠璃光寺。

豐榮神社。

十日 サベリヨ遺蹟。常榮寺。寺内文庫。

嚴島。嚴島神社。同寶物館。大願寺。光明院。

十一日尾道 淨土寺。西國寺。千光寺。(午後五時解散)

見學個所の主なる記録。

△西光寺。「栞」参照。寺寶として、實如上人眞筆十字

名號。同御文書三通一卷。御消息一卷。宗祖御影。

彌陀聖衆來迎圖。彌陀來迎圖。教如上人御消息。

四幅繪傳(宣如上人寛永三年)等。

△ヘルン舊宅、同記念館。日本を最もよく歐米に紹介

したる文豪小泉八雲の舊宅なり。記念館にはヘル

ン使用の日常必需品、學用品、著作、ヘルン研究著

作物等一切を藏す。

△大寺藥師。「栞」参照。寺寶としては本尊木像藥師如

來。日光、月光、觀世音などの木像菩薩等。

△日御崎神社。下ノ本社御祭神天照大神。上ノ本社

御祭神素盞鳴尊なり。寶物として賴朝寄進の甲冑

壹領(國寶)。名和長年寄進の腹卷壹領(國寶)。後

醍醐天皇御繪旨等古文書多し。

△千家男爵家所藏文書。後醍醐天皇繪旨六通(寫)。後村

上天皇繪旨。靈元天皇繪旨。正親町天皇御製。後

陽成天皇御宸筆。昭憲皇太后御歌。光格天皇御中

啓。孝明天皇御料唐錦褥。貞孝軍忠狀。足利尊氏

祈願狀。正平十年及十二年の小野清政の起請文。

出雲大社附近古繪圖の寫。三條實美書。水戸烈公

書。本居官長大人自畫譜等々。其の所藏甚だ多

し。

△北島男爵家所藏文書。土御門天皇出雲國造への御下

文。後村上天皇繪旨(三通)。靈元天皇繪旨。御教

書四通。北條時政、左兵衛尉、相模守平朝臣並左

京權大夫朝下知狀。執達狀。安堵狀等々古文書は

非常に多く其の他、國造家相續に關する文書(九

通)。大社造營年歴記錄。大社土宮座配次第書。慶長

十四年御造營圖等所藏の寶物すこぶる多し。

△出雲大社。「栞」參照。寶物殿にては出雲大社本殿模
型。稻田姫命木彫像。後醍醐天皇繪旨(國寶)。螺鈿
蒔繪櫛笥(國寶)。寶劍勅望繪旨(國寶)。糸卷太刀
(國寶)等は代表的なものである。

△松陰神社。松下村塾。寶物としては土規七則。留魂
錄等松陰自筆の遺書を始め寫本、遺墨等多し。

△明倫館。館趾に建立せる明倫小學校の二階にある萩
名産館、萩史料館を見學す。

△博物館並圖書館。博物館にては毛利家大内氏に關係
のものを、圖書館にては縣史編纂所の編纂史料を
見學す。その主なるものは閩閩錄(享保年間
二百四卷)。譜錄(明和年間
五百册)。防長古器考。社寺證文。防長古文書誌(千數卷)。山口縣
風土誌。金石文誌。正閩史料。大内氏實
錄。摺雲提風。北辰餘光。遯庵詩集。周南先生文
集。郡中制法。社寺法度。毛利家制法。附近寺院
由緒書。地下上申。郡中大略。風土注進案。山口
縣風土誌等々なり。

△洞春寺、瑠璃光寺、豐榮神社は都合により寶物は見
學し得ず。その建造物のみを拜觀す。

△嚴島神社。同寶物館。神社に參拜し寶館物を見學す、

その所藏の寶物すこぶる多く國寶の建造物寶物等
は「栞」國寶建造物寶物目錄」にゆづる。

△淨土寺「栞」參照。本堂單層、入母屋造。嘉曆二年(國
寶)。阿彌陀堂、單層四注造、康永四年(國寶)。多
寶塔(國寶)を拜觀す。寶物としては本尊木像十一
面觀音立像一軀。聖德太子立像(以上
國寶)。觀世音法
樂和歌一卷。法華經一卷。定證起請文一卷。後醍
醐天皇繪旨。足利家代々御教書。小早川隆景書等
多し。

△西國寺。「栞」參照。本堂(單層入母屋造)。三重塔は
國寶。釋迦如來立像。藥師如來坐像。五鈷鈴一口。
錫杖一柄。金光明最勝王經十卷その他多し。

△千光寺。「栞」參照。(以上國史研究會記錄ヨリ)

○指導者徳重淺吉教授。參加者先輩横田善龍、大草正。
三回生仲野良俊、徳山尊麿。二回生柏原祐泉、高木麗
敬、藤川正、淺野一善、細川博。一回生武村務、速水
俊憲、太田賢。

○第四回例會。

日時、六月二十五日午後一時ヨリ第七教室に於て。

△卒業論文研究發表

戰國時代に於ける本願寺

小笠原長晴君

△山陰山陽踏査旅行發表

- 一、松江西光寺について
- 二、出雲を中心として考へられる小泉八雲

速水俊憲

仲野良俊

高木麗敬

徳山尊磨

柏原祐泉

細川博

太田聖

藤川正

武村務

淺野一善

出席者、徳重教授、藤島氏、宮田、大草、佐々木、横田、先輩學生二十三名ありたり。

○座談會並送別會

六月二十五日午後六時より三條森永キャンデーストアにて本會に關する座談會をかねて柳山淳、小笠原長晴

兩君の送別會を開く。

出席者徳重教授、宮田、柳山、小笠原、横田、大草、佐々木等先輩以下學生十二名あり。

○一遍上人繪卷展見學。

十月一日午後一時より博物館にて一遍上人繪卷展を見

學す。

出席者徳重教授、宮田氏以下學生十五名あり。(以上)

△東洋史學會

第三回 東洋史例會

日時、場所 六月二十八日 於第十一教室

講題 後漢書逸民傳に就いて

講師 藤田教授

出席者 田村、野上、徳重、愛宕諸教授及び學生九名

第四回 東洋史例會

日時、場所 十一月二日 於第十一教室

講題 明代史に就ての一管見

講師 田村教授

出席者 田村、野上、藤田、愛宕諸教授及び學生十二名

内容

明代の時代的性格を考察されたもので、その重心を國家的統制に置かれるものであつた。

尙、最後に附け足りとして學生に東洋史學の方法論を御指示あつた。(定記)